編集後記

2003年11月6，7日の二日間にわたり、フローインジェクション研究講演会 20 周年記念大会が岡山大学で開催されました。参加者も 170 名を越えタイの Dr. Grudpan (Chiang Mai Univ.), Dr. Nacapricha (Mahidol Univ.) の 2 名が招待され、また原口紘炁教授（名大大学院工）の基調講演もあり盛り上がった記念大会となった。参加者にとっても満足な二日間ではなかったかと思います。ご尽力頂いた本水昌二実行委員長、大島光子先生にお礼申し上げます。お陰様で **JFIA** も Vol. 20、No.1 を既に発刊しておりますが、No.2 も内容の充実したものになりました。巻頭言は Prof. Zolotov (Russia)と小熊幸一先生にお願いし、また国際的に 20th Anniversary of JAFIA を強調、ピーアールする意味で英文を併記して頂きました。総説は山田正昭先生に依頼し、Vol.20 から開始した“解説”は樋口慶郎様より寄稿していただきました。この欄は FIA を読者に分かりやすく伝える趣旨で新設されたもので大いに参考にして頂ければ幸いです。また将来の **JFIA** の展望を期待し ”Minireview”を公募しましたところ 3 報が採択・掲載されました。ご自身の研究・周辺の近況を短くまとめて投稿されることをお勧めします。

20 周年記念大会で **JFIA** の 20 年の歴史をまとめ本誌にも掻い摘んで紹介させていただきましたが、FIA を対象にした論文誌・会誌は世界で唯一のもので、今や世界的にも注目されている論文誌であると自負しております。その様な意味でも **JFIA** の持つ価値観は更に高まっていくでしょうし、また高めていく使命があると感じております。初代編集委員長の石橋信彦先生をはじめ国内の偉大な FIA 先駆者が国際的に評価される会誌に成長することを願っておられましたが、No.1，No.2 とも国内外から欧文の巻頭言、総説、ミニレヴュー、原著論文が寄稿・投稿されており、その期待に沿うよう前進していることを編集委員一同誇りに思いながら編纂業務にあっております。

1998 年に河嶌先生から引継ぎ **JFIA** の編集委員長を 6 年務めさせていただきましたが、国際経験を積んだ次世代のスタッフも育っていることから実質的な編集業務は今任稔彦先生（九大院工）にお任せすることになります。次年度 1 年間は共同編纂という形で携わりますが、今後も **JFIA** の発展にご理解・ご協力を賜れば幸です。次年度は現在の編集委員で運営いたしますが、幹事委員が努めているカラム担当は交代します。指標担当の善木先生（岡山理大）・伊永先生（都立大院理）、総説担当の山根先生（山梨大）には長い間原稿依頼の重責を果たして頂き感謝しております。特に山根先生には副編集委員長としてサポート・ご助言を頂き無事に任務を終えることが出来ました。この場をお借りして深謝します。さらに事務局からの「お知らせ」をきめ細かく構成して頂きました大島先生にお礼申し上げます。また事務業務を一手に引き受け精力的に尽力してくれました手嶋君に拍手を送りたいと思います。

最後に、**JFIA** の発展に寄与して頂きました会員・編集委員・論文査読委員の皆様にお礼申し上げます。

JFIA 編集委員長　酒井忠雄